

イェール大学美術館アジア部主催
『茶の旅路：日本の茶文化今昔』
The Journey of Chanoyu
An International Symposium on the Tea Culture of Japan, Past and Present
特別展覧会会期中開催
国際シンポジウム並関係プログラム

展覧会： **Tea Culture of Japan: Chanoyu Past and Present**
展覧会日時： 2009年1月20日～4月26日
展覧会場： Yale University Art Gallery
1111 Chapel Street, New Haven, CT 06520
イェール大学美術館一階特別展室シェンギャラリー並
び二階アジア部日本美術常設展デイトンギャラリー一
部

シンポジウム日時： 2009年4月17日 午前9時～午後5時
シンポジウム会場： 美術館内マクニールホール
シンポジウム関係者への遠州流点茶とディナー：2009年4月16日(木) 5時から
武者小路千家流お点前： 2009年4月18日（土曜日）2時～3時
一般向けの呈茶： 同 3時～4時半
お点前会場： 美術館内マクニールホール
呈茶会場： 美術館メイヤーロビー

展覧会概要：

日本の茶文化に関する展覧会で、個人蔵の（ニューヨーク市在住Peggy and Richard M. Danziger）コレクションを中心に、当館のコレクション並びに近郊の個人蔵からも拝借して約100点を展示。展覧会は重要課題三点に絞り、侘び以前（地方武士の娑婆羅趣味、唐物趣向）、利休の侘び、侘び以後今日までとする。展示品は、能衣装、天目茶碗、利休手製の茶杓、宗堪の茶がけ、志野茶碗銘「鬼瓦」、井戸茶碗、瀬戸茶入れ「白露」、遠州製茶杓銘「古里」、唐代酒盃、デルフト製ぐい飲み、十五代楽吉左衛門の花入れ、辻清明の香合、Lee Lee-Nam のビデオ「雪竹」等多種類。等身大の茶室も匿名で拝借。国際性豊かな茶文化の理解を深める目的。

主題は、侘びといわれている審美感を、近郊の小学生から一般の方々にまで理解してもらおう意向。日本美を代表する侘びさえも、しかし、多方面からの外的要素を内包し選択し生粋を極めたもので、その時代ごとに変化しつつある。日本は島国で過去においては外国の影響を受けたくない時にはかなり抑制することができたが、常識となっている孤立とは相反して、日本美は多くの外的要素を吸収、同

化、融合、統合、選択の繰り返しの上に独特の美を成立していて、21世紀の今も変化し続けている、ということを伝える。

展覧会並カタログ*Tea Culture of Japan*茶の旅路 に援助をいただいております次の方々に感謝します。Exhibition and publication made possible by the E. Rhodes and Leona B. Carpenter Foundation; Ann and Gilbert H. Kinney, b.a. 1953, m.a. 1954; the Japan Foundation Endowment of the Council on East Asian Studies; the Mary Livingston Griggs and Mary Griggs Burke Foundation; and an endowment created with a challenge grant from the National Endowment for the Arts.

シンポジウム概要：

2009年4月17日金曜日に当美術館の講堂で一日シンポジウムを開催。前夜16日木曜日の夜に関係者のディナーで、翌日一日中学会、土曜日は一般向けのお点前のデモンストレーションと呈茶を予定。学者のみの学会でなく趣向を変えて、‘もの’を軸に、美術史家の他にもキュレーター、陶器芸術家、建築家、茶道宗匠、美術商、も参加で、茶文化の歴史と現在の創造性、動向と展望、問題点を発表、質疑応答。日本的とは何なのか。伝統と革新の許容。今やインターネットの時代で、孤立は更に難しく課題は国際化し日本美の行方はどこへ。というところまで話し合う。

シンポジウム講演者並び進行係：

(敬称略)

1. 建築専門、東大教授、藤森照信、「極小空間の探究」（イェール大学建築学校と連携して二回目の講義は「建築と自然：藤森照信の建築とは何か」4月20日（月）午後6時半から美術館の西向かい側ヨーク通り180の ルードルフホール地下のヘイスティングスホールにて。）
2. 書道専門、五島美術館キュレーター名児耶明、「茶道の中の書」
3. 美術史家、ロンドン、ロイヤルアートカレッジ教授Christine Guth, *Recycling as Design Practice in the Japanese Tea Ceremony*（茶の湯のデザインとしてのリサイクル）
4. 美術史家、アムハースト大学教授Samuel Morse, *Matsudaira Fumai and 'Treasures of the Nation: Collecting Tea Wares in Late-Edo Japan*（松平不昧と‘国の宝’：江戸後期の茶器収集）
5. 陶芸家、茶器専門辻村史朗 自作の茶碗数個持参で手触り披露の後、十五分ビデオ放映、質疑応答
6. 陶器専門、根津美術館キュレーター 西田宏子、*The Transformation in Tea Utensils: mid-16th century to early Edo Period*（十六世紀中頃から江戸初期の茶陶の変遷）
7. 武者小路千家家元十五代後嗣、千宗屋、「茶の湯の現代」
8. 株式会社瀬津雅陶堂 代表取締役 瀬津勲（イェール大学で美術史勉強）パネルディスカッション担当

9. コネティカット大学アシスタント教授、渡邊武コーディネーター

茶道関係プログラム：

4月16日（土）5時～

シンポジウム関係者への伊藤澄子女史による遠州流お点前並呈茶

4月18日（土）2時～4時半

お点前： 動きの無い展覧会補足の為、文化庁文化交流大使として在米中の武者小路千家流千宗屋氏が美術館内マクニールホールにて行う。

呈茶： お点前の後、千氏と裏千家流伊勢とみ女史による立礼式の一般向けの呈茶は美術館ロビーにて。

呈茶一部援助： 遠州流十三代家元小堀宗実; Tomi Ise, Director of ISE Cultural Foundation, New York; Koichi Yanagi Oriental Fine Arts

展覧会期中（1・20～4・26）土曜と日曜2時半から：

ビデオ放映： 四季折々の点前のDVDを美術館ロビーにて。

詳細は、次参照：<http://artgallery.yale.edu>

学会援助・協賛：

イェール大学東アジア研究学部（Council on East Asian Studies）

2007年9月発足の「東大・イェール イニシアティブ」協賛

国際交流基金ニューヨーク支部援助

展覧会・シンポジウム・プログラム責任担当：

イェール大学美術館アジア美術部

国際交流基金日本美術キュレーター 大木貞子

アジア部アシスタント アミ・ポッター

質問等は下記に（日本語で質問を電話に残して下さいでも結構です。）：

[Department of Asian Art](#)

[Yale University Art Gallery](#)

[P.O. Box 208271](#)

[New Haven, Connecticut, 06519](#)

[USA](#)

Telephone: 203-432-7379

Fax: 203-432-2780

<http://artgallery.yale.edu>